

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100602		
法人名	特定非営利活動法人いきいき会		
事業所名	グループホームなごみ	ユニット名	西
所在地	宮崎県東臼杵郡門川町須賀崎4丁目48番地		
自己評価作成日	令和3年1月18日	評価結果市町村受理日	令和3年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiogkensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和3年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームでは、「その人の思いを大切に、その人の思いを自分自身に置きかえるケアを推進し、その人の笑顔がみたい」の理念のもとに、利用者が穏やかに自分のペースで過ごしていただける様に日々援助を行っている。今年度は新型コロナウイルスの世界的な流行により周囲との交流ができず、例年行われていた行事も相次いで中止となってしまった。このような状況の中、施設の職員が中心となって踊りの出し物を行ったり、例年より利用者に関わる時間を増やしたり(タクティールケアの活用)して、利用者の不安とストレスの軽減や楽しみ作りを行った。ここ数年力を入れているのが災害対策で、5月にはコロナ禍の中ホーム独自に計画した避難訓練を行った。また台風等での停電時の対策で発電機を導入する、町に働きかけて施設付近の道路の冠水対策の工事を行うなど非常時の物品や環境も整えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは同じ法人の有料老人ホームやデイサービスセンターと隣接して立地しており、ボランティアの受け入れや研修等で連携して運営している。管理者は地域密着サービスの意義を踏まえて、地域の行事への参加やボランティアの受け入れ等、行政や地域住民との交流に取り組んでいる。また、職員は理念を理解共有に努め、利用者が笑顔で日々楽しく安心して生活できるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	西	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念として利用者の立場に立った尊厳のあるケアをしていく事を掲げている。勉強会開催の際には理念の唱和を行うほか、ユニット内に貼り出し共有を図っている。	勉強会やミーティングで理念について話し合い理解を深め共有するよう努めている。職員は理念に基づき利用者が笑顔で安心した生活が送れるよう支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年に関しては行事等を通じての交流が難しかった。しかし避難訓練に際しての近隣住民への呼びかけや区長、民生委員との情報交換を通じての交流は継続して行えた。	ボランティアや高校生の実習の受け入れ、地域の行事に積極的に参加するなど、地域との交流を深めていたが、感染対策のため、交流が厳しくなり、現在は電話や文書で交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年門川高校福祉科の学生の实習受け入れを行っている。運営推進会議開催の際には家族や地域に向けて認知症の特徴や対応方法を説明することがある。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は運営推進会議の開催が困難な為、会議の資料を作成し各地区の区長や家族に(郵送や対面にて)配布している。直接対面で配布する場合にはそこで情報交換をしたり意見を聞くようにしている。	感染対策のため、運営推進会議は内部の関係者だけで開催し、議事録を関係者に直接持参し報告している。そこでの意見や提案、助言をサービス向上に生かすよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	例年なら運営推進会議の際に意見を交換したり助言を受けることが多いが、今年は開催ができないことがあった。代わりに資料をもって直接訪問しそこで連携を図った。	電話や直接訪問してホームの実情や課題を報告している。担当者から感染予防のための助言や指導を受け、協働して課題に取り組むなど、協力関係の構築に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回の身体拘束等適正化委員会で自分たちのケアを振り返り、身体拘束や虐待に繋がらないように留意している。また、定期的な研修と新人職員に対する研修を行い身体拘束をしないケアの浸透を図っている。	身体拘束等適正委員会で身体拘束をしないケアのあり方について話し合いを行っている。また、定期的な研修で身体拘束の弊害を学び身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は玄関の施錠はしていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム連絡協議会主催の研修に毎年参加している。そこで得た情報や考え方を勉強会やカンファレンス時に共有する事で虐待防止の意識を高めている。			

自己	外部	項目	自己評価	西	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政や主治医からアドバイスをいただいたり、直接協力を得たりしながら(家族などの財産管理者のいない)利用者の成年後見制度の活用につなげることができた。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には話しやすいような環境や雰囲気づくりに努めている。分かりにくいような所は簡潔に分かりやすく説明する他、質問があるかどうか小まめに確認し話をすすめるようにしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議が開催できていた時期には、会議時に意見を訊くことが多かった。コロナ禍においては家族が荷物をもって来た時や電話で利用者の情報を提供したときなどに合わせて伺うようにしていた。	家族の来訪時に本人を含めて意見や要望等を聞く機会を設けている。また、来訪が困難な人には電話で情報を収集し運営に反映させるよう取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会や申し送り時、カンファレンス時に職員の意見を伺う機会を設けている。職員の意見を基にシフトの調整、業務内容や食事メニューの変更、物品の調達などを行うことがある。	職員会議やミーティングで、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。会議ではシフトの調整や食事のメニューの変更、物品の調達方法等について話し合い運営に反映させるよう取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの希望や意見を出来るだけ取り入れながらシフトの編成や変更を行っている。職員の業務に対する取組や資格取得に応じて昇給できる仕組みも整っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践リーダー研修を通じて、認知症ケアにおける職員の評価方法や助言、コーチングを学んでいる。また不定期ではあるが認知症に関するテストやケアの振り返りを行ってもらい、自身のケアを見直す機会としている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会県北ブロックに加盟している。今年は少なかったが、例年では年3回は研修等を通じた交流があり、活発な意見交換が行われている。			

自己	外部	項目	自己評価	西	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談の際には、まず第一に利用者ご本人の話を伺うことに留意しながら対応している。傾聴を繰り返しながら、ご本人の不安の軽減と信頼関係の構築を図っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のこれまでの苦労やこれからグループホームを利用するにあたっての不安、思いを傾聴するように努めている。利用者本人と同様、早期に信頼関係が築けるように対応している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者に対するケアの中で小まめに意見を伺ったり、自身で意見が言えない利用者に対してはケアに対する反応をみたり家族を介して情報収集を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で利用者ができることは自身で行ってもらったり、簡単な作業を手伝ってもらするなどしてもらっている。また一緒に歌を唄うなど、共に楽しめる場面も提供している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会の際には、ご本人の生活状況等の近況を説明し対応のアドバイスをいただいたりしている。今年は感染防止の観点からも、個別でゆったり話せる環境を提供した。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年はコロナ禍で面会を制限していた為知人友人が訪れることは少なかった。病院受診時に住んでいた場所の近くをドライブしたり、面会があった場合には利用者と面会者がゆったりと過ごせるような環境を提供した。	病院受診時を利用して、自宅近くをドライブしたり、家族の協力を得て墓参りをするなど、馴染みの関係が途切れないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールで過ごす際の配席を工夫し、利用者同士が支え合えるような環境を整えている。利用者同士のトラブルを防止する為、交流の際にはスタッフも同席し見守り対応をするようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	西	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	別の施設(特別養護老人ホーム等)への入居や継続的な医療処置が必要な為契約が終了することがある。契約終了後も何かあれば相談してもらえるように声かけしたりその後の経過を伺ったりといった働きかけを行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のコミュニケーションやケアに対する反応を小まめに観察、記録しながら利用者の意向の把握に努めている。把握に際しては、他ユニットの職員や家族など様々な視点から意見をいただくこともある。		日々の暮らしの中で、利用者の表情や会話を細かに観察記録し、思いや希望の把握に努めている。家族や関係者からの情報も参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握に際しては利用者との会話の中でこれまでの生活歴を伺ったり、一緒アルバム等を見ながら思い出話をしてもらうことが多い。会話が困難な利用者については、家族や面会者からの情報収集を行っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員それぞれが毎日の介護記録や支援経過記録等の記録を確認したり実際に利用者のケアを行う中で、利用者のADLや精神状態の変化を把握している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の生活状況やADL、認知症の程度、精神状態などの情報をアセスメントしながら計画作成を行っている。作成者だけではなく関係職員や家族などの様々な面から情報を集めている。月に1回のモニタリングで見直しを行っている。		利用者の思いや家族の意向、職員の気づきや意見を取り入れた介護計画を作成している。モニタリングは毎月行い、介護計画は状況に応じて適切に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画は記録用紙とセットで準備しておき、介護計画を確認しながらそれに沿った記録になるように工夫している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在は感染防止の観点から外部との交流が困難となっている。そのため内部で職員による踊りの披露をしたりと、ホーム内でも楽しめるような工夫を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	西	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年行事への招待や参加はできなかったが、災害対策の面では地域(区長や地域の消防署)と協力しながら安全な環境を整えている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医を把握しておき、入居後も継続して医療が受けられるように援助している。一方で協力医療機関を定めているため、かかりつけ医に入院施設がない場合などはそちらを紹介することもある。	本人や家族が希望する医療機関で受診出来るよう支援している。協力病院には入院病棟があり急変時など適切な医療が受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段から介護職と看護職と一緒に利用者に関わっていくため、介護職と看護職の距離が近く情報共有しやすい。また看護職同士が相談し合う事で適切な処置や対応がしやすい状態である。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には口頭で病院の看護師やケースワーカー状態を伝えるほか、情報提供書を作成して入院後も適切なケアが受けられるように対応している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まず、入居の段階で終末期覚書を用いて(本人家族共に)終末期の意向を確認している。また大きな体調の悪化があったり、ADLが低下している場合には再度意向の確認、訂正を行うことがある。	重度化や終末期のあり方については、利用開始時に終末期覚書で説明し同意を得ている。体調の悪化や急変時の対応については、本人や家族、医師、関係者と再度協議し要望に対応できるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会で救急対応について取り上げたりユニット内で救急対応の資料を掲示したりして、対応方法の周知を図っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新型コロナ感染防止の観点から、5月には消防署を呼ばずに独自で避難訓練を行った。避難訓練では新人職員と中堅職員と一緒に誘導などを実施することにより、全職員が避難や通報の方法を把握できている。	年2回の避難訓練を行い、近隣住民に避難訓練への参加を回覧で呼びかけている。特にホームは海岸に近いことから、津波の心配があり、避難場所の確保や地域との協力体制の構築が充分とは言えない。	津波に備えて、行政や地域住民の協力が必要であり、避難訓練や避難場所の確保等を協働して推進することに期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	西	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本施設の基本方針である「尊厳のあるケア」を意識しながらケアにあたっている。身体拘束等適正化委員会において参加したスタッフが人格を尊重したケアを行うことができているか、振り返りと確認を行うこともある。		利用者の人格を尊重した言葉遣いや名前の呼びかけ方等に配慮したケアに努めている。特にトイレへの誘導や入浴時の対応には細心の対応で支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自身の着用する衣類や部屋に飾るカレンダーを選んだりする場面が見られる。言葉を発することや意思表示が困難な利用者に対しては、表情や反応を見ながら好みを把握することもある。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事時間などある程度時間が決まっているものでも、ご本人の生活ペースに合わせて時間をずらすなど、柔軟な対応を心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な利用者様に対しては自身で髪の毛をとかしてもらったり、爪を切ってもらうなどの対応を行っている。自身では困難な利用者様については、利用者様の反応を見ながら整容を行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者それぞれの好みや、摂食嚥下能力に合わせた柔軟な食事形態の変更を行っている。また気の合う利用者様同士に同じテーブルで食べていただくなど、楽しく食事ができるような環境を整えている。		利用者の好みを取り入れ、旬の食材を使った食事を提供している。また、利用者と職員は同じテーブルを囲んで食事をするなど食事を楽しむことができるよう取り組んでいる。後片付けを手伝う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は全利用者、水分摂取量については摂取量の少なめな利用者様について記録し把握に努めている。不足しがちな利用者様については好きなもので補うなど、栄養や水分の不足を防止している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自身で口腔ケアが行えない利用者に対して薬液を使ったうがいをを行うなど、利用者の能力や意欲に応じた口腔ケアの援助を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	西	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位が可能な利用者については(パッドを使用している方であっても)、トイレでの排泄を促している。パッド交換が必要な利用者については小まめに陰部洗浄するなど、清潔保持を図っている。		排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、出来るだけトイレで排泄せつできるよう自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排泄状況(便秘しやすい、下痢しやすい)等に沿って摂取するものを変えるなど、薬一辺倒ではない排便コントロールを行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は(月水金の午前中)一応決まってはいるが、それにとらわれない柔軟な対応を心がけている。声かけでは無理強いせず、利用者の気分の良い時を見計らって対応するなど、利用者が納得して入浴できる取り組みを行っている。		入浴は週3回を基本としているが、利用者の希望や体調に合わせて柔軟に支援している。入浴を拒む場合は、無理強いすることなく、日時を変更したり、タイミングよく声掛けするなど工夫して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠りの浅い利用者に対しては日中の声かけの機会を増やして覚醒を促したりして、なるべく睡眠薬に頼らないような対応を行っている。夜間の居室での環境(温度、寝具の状態等)を整えている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診の際にはお薬手帳を持参し、医師や薬剤師等に服薬のアドバイスをいただいている。利用者の服薬状態を確認してそれに合わせた薬の形態の変更を依頼するなど、服用しやすいよう工夫している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	商売をしていた利用者には計算問題、家事が得意な利用者には洗濯物たたみ、歌が得意な利用者様に対しては一緒に歌うといったように、利用者の好きなことを踏まえた活動を促している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為外出する機会は減っている。そのため気候の良い時には中庭にでたり、玄関先で外気浴を行う、窓を開ける時間を増やして外の空気を感じてもらえるなどできる範囲内で季節を感じてもらえるような工夫を行っている。		感染対策のため、ドライブや外食等は控えているが、天気の良い日には、近くを散歩したり、中庭で日光浴をするなど、気分転換が出来るよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	西	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	生活の中で欲しいものや必要な物があれば預り金の中から購入するようにしている。それとは別に自身で少額のお金を持ち管理している利用者もおられる。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年年賀状を作成し家族に送っている。年賀状には利用者の言葉(できる人には自分で書いていただく)や近況を記載している。コロナ禍である今年は面会も困難であった為、特に力を入れている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が共用する空間には、クリスマスツリーや季節の花を使った生け花などを置き、季節を感じやすいような空間をつくっている。利用者の表情を伺ったり、意見をきいたりしながら、光や音といった環境の調整を行っている。	採光や室温、換気等利用者が日々快適に生活できるよう配慮している。ホールには雛人形や季節の花が飾られ、利用者が季節を感じながら居心地よく過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士に同テーブル(または近くの席)に座ってもらい、楽しく過ごしていただけるようにしている。1人で過ごしたい利用者には自室の他、ホール内の和室を案内することがある。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望や意見を取り入れながら居室内の家具などの配置を行っている。利用者が在宅で生活していた時に使い慣れた物や写真などがあれば、ご家族に依頼して持ってきてもらうことがある。	家族と相談しながら利用者の希望や個性を生かした部屋づくりを支援している。使い慣れた家具や写真、テレビ等を持ち込み、居心地よく安心して生活できるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内は基本的に段差がなく、バリアフリーの状態となっている。転倒防止の為、特に歩行可能な利用者の居室では小さな段差や床ぬれが無いように留意している。			